

射水市立東明小学校活動報告

◆活動取組の紹介

・「学校ボランティアの方との交流会」(6月)

参加人数 全校児童 268名

今年度、登下校の見守りや、クラブ、読み聞かせ等のお世話になる地域のボランティアの方々を学校に招待して集会を開いた。ボランティア委員会や放送集会委員会が中心となり、お世話になるボランティアの方々に「よろしくお願いします」と挨拶をしたり、一緒にゲームをしたりして楽しく交流した。



〈学校ボランティアの方との交流会〉

・「福祉プラザ七美との交流会」(12月)

参加人数 ボランティア委員 9名

校区内にある老人保健施設の方と、交流会を企画した。これまでは感染症対策のためリモートで行っていたが、今年度は実際に施設に赴いて行った。お年寄りの方に楽しんでもらえるようにじゃんけんゲーム、しりとり、ジェスチャークイズ等を実施した。ゲームの回数やヒントの出し方等、お年寄りの方を思いながら工夫を凝らして取り組むなど、相手を思いやって考えたり行動したりする心が育った。

・「アルミ缶、ペットボトルキャップ、ベルマーク集め」(毎月15日)

参加人数 全校 268名

アルミ缶は、校区内にある障害者支援施設いみず苑の作業用に回収している。そのほか、ペットボトルキャップやベルマークの回収を行っている。収集の趣旨をボランティア委員が放送で呼びかけることで、全校の子供たちのエコ、福祉活動への意識が高まってきた。

◆活動していてやりがいや喜びを感じるとき

「交流会」

今年はリモート交流ではなく、実際に施設に行って交流しました。お年寄りの方が楽しんでもらえるように難易度を工夫したり自分からたくさん話しかけたりしました。お年寄りの方がとても喜んでくれたのでうれしかったです。(5年 男子)



〈福祉施設の方との交流〉

「回収活動」

ボランティア委員会では、毎月回収活動をしています。たくさんの人に協力してもらえるように校内に掲示するポスターをつくったり、回収活動に参加してくれた人に名人カードをつくって渡したりしました。続けて持ってきてくれる人が増えたのでうれしかったです。(6年 女子)

◆最後にひとこと

今年度は、数年ぶりに福祉施設との交流を様々な学習場面で行うことができた。ここ数年はリモートでの交流が続けてきたが、久しぶりに対面して関わり合うことができ、子供たちは施設の入居者の方と一緒に楽しさを共有して活動を行うことができた。入居者の方の気持ちに寄り添いながら声をかけたり対応を工夫したりするなど、相手を大切に思って行動する子供たちの姿が見られた。施設の方からも是非、今後も定期的に交流できる場があると嬉しいとの感想をいただいた。

回収活動については、より多くの人に活動に参加してもらえるよう、カード作成や放送、ポスターの掲示等、自分たちで考えて行動することができた。今後も子供たちが主体的に考えて活動できるよう、支援や指導をしていきたい。